

平成17年度第1回山梨県考古博物館協議会議事録

○ 開催日時

平成17年11月11日（金）午前10時～

○ 開催場所

風土記の丘研修センター研修室

○ 出席者

委員：李榮求委員、池田友治委員、小俣民男委員、斉藤洋子委員、佐藤洋介委員、
椎名慎太郎委員、滝田二三雄委員、立川信子委員、谷口一夫委員、
野沢信次委員（15名中10名出席）

事務局：館長、副館長、学芸課長、総務課員

○ 協議会の成立

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立した。

○ 議事

- (1) 平成17年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成17年度考古博物館予定事業について

(事務局) (1)、(2)について説明

(委員)

10月15日に県立博物館が開館したが、今後考古博物館ではどのような連携を図り、相乗効果をねらっていくのか。

例えば、共通券の発行が可能となれば企画の連携などにもつながり、お互いのメリットが引き出されるのではないか。

(事務局)

県立博物館建設時の論議で、県立博物館はハブ博物館、考古博物館は考古の専門館として棲み分けが示されました。県立博物館に立ち寄っていただき、そこで考古の専門館としての当館を知ってもらおう。当館のある風土記の丘曾根丘陵公園40ヘクタールの中には、銚子塚等の史跡や火起こし等の古代の技術体験ができる研修センターもありますので、これらの特

色を中心に考古学の専門館として、考古学に興味を持っていただけるようにアピールしていきたい。

なお、学術文化財課では観光立県の立場から全館で使用可能な共通券などを検討しているようですが、入館料の違い、休館日の問題などで現状では難しいようです。

(委員)

講座における受講者のターゲットと実績は。また年齢はどのような方が多いのか。

(事務局)

特別展に伴う講演会は一般成人を対象にしているが、中には小中学生も数名参加されている。講座については、ことぶき勸学院が半分、あとは一般の成人が半分というところであります。

(委員)

冒頭にもあったが、新しい考古博物館の局面を迎えているので、県立博物館を中心として連携を強化していただきたい。博物館と考古博物館のイメージが重なっているように県民に写り、博物館の付属的な施設としての扱いを受ける心配はあり、県立博物館からも来館者に対し、考古博物館が古代の専門だと理解してもらえるような対応をしてもらう必要がある。なお、先ほど話題になった共通券はおもしろいと思う。例えばパリに行くといろいろな博物館の共通券があり、半年から3ヶ月間有効な券というようなものもある。また、考古博物館は23年間という歴史はあるものの、運営上では共通券や入館料などの面で影響を受けることは懸念されるので、4館（美術館、文学館、考古博物館、博物館）共通の問題として検討する場は必要ではないか。

(事務局)

4館合同で話をするのは年一回ある程度でありますので、今後検討したい。共通券につきましては、それぞれ入館料等が違いますので早急には難しいと思います。また、休館日については非常に今、クローズアップされておりますので、これらと例えば宿泊料が安い日曜日をリンクさせるなどの検討が必要と思いますし、休館日を同じ曜日にしないような工夫も必要だと思います。いずれにしろ観光立県としては検討しなければならない課題ではありますが、観光客、県民及びそこで働く職員にも不都合がないようにしなければならず、複雑な問題であると思います。

イメージにつきましては、23年間という考古博物館の歴史とともに、埋蔵文化財センターによって発掘・蓄積された出土品が県民すべての財産であるという意識を持ち、職員が英知を結集して事業を展開することにより、県立博物館の付属的な施設になるということについては心配しておりません。予算がなくともこれらを利用・事業化し、県民に還元していくことにより、おのずから道は開けていくと思っております。

(委員)

県立博物館にはみんなで作る博物館協議会というものがあり、観光事業者や商工事業者を含んだ組織があるが、その中でも共通券とか、巡回バスはどうかという話題が出ていた。博物館へはバスのルートがあるようだが、県民サービスという観点からも考古博物館にも回ってもらう必要がある。相乗効果にもつながるので、科学館も含めた5館共通の問題として事務局レベルの会議を開催し、それ等を要望していくことが必要ではないかと思う。県立博物館は全体的な歴史、考古博物館は原始・古代と棲み分けがされているが、考古博物館もさらなる充実が図られるようこの協議会としても教育委員会に要望していきたい。

(委員)

その通りだと思う。来館者がハブ博物館としての県立博物館に来た際、古代の専門は考古博物館だと思ってもらえないと意味がない。来館者に対し、県立博物館からも働きかけをしてもらうなど、お互いに話し合っただけ協力していくことが大切。なお、考古博物館は公共交通機関を利用するには不便なところなので、県立博物館から考古博物館への循環バスがあったらいい。過日は特別展の記念講演会に参加し、縄文の犬の骨を手で触る体験ができた。又「秋の風土記の丘散策と特別展の観覧」にも参加したが、すばらしい立地条件の中でピクニックを行い、誘った人にも満足していただいた有意義な一日であった。今後も恒常的に進めていくことが必要だし、この土地に親しむという点でもいいと思う。

(委員)

先日、新聞に県立博物館に行くバスのことが載っていた。そのルートは敷島～甲府駅～石和駅～県立博物館となっていたようだが、考古博物館にもぜひ回ってほしいので、今後要望していきたい。

(委員)

課題となっている総入館者や講座の受講者数などについては数値目標はあるのでしょうか。特別展に関しては、全国規模の巡回展として平成7年度に開催されたシカン展などに多くの入館者があると資料からは読み取れる。予算のこともあるだろうが、インパクトの強い特別展をある程度位置づけていく必要があるのではないかと。

(事務局)

シカン展やネアンデルタール人などの巡回展は予算規模も大きく、実行委員会などを立ちあげ、コマーシャル等も行うため、入館者の確保にはつながるが、イベント的な意味合いが大きいと思われる。地域に根ざすと言う意味においては、巡回展を考える前に、地域の特色があるものを自分たちが創意工夫し、展示する努力をしていきたいと思っている。

ちなみに、昨年度は経費の3割程度の収入があるよう目標を設定しているが、実績も残している。

(委員)

巡回展であるシカン展は放送局の開局記念として開催したもの。コマーシャルの効果もあり、入館者も多数あった。

(事務局)

補足として、風土記の丘全体の利用者数の目標だが、昨年度の実績36,000人に対し、今年は現時点では32,000人で、安心はできないものの、40,000人を越えたいと考えています。巡回バスにつきましては、当協議会に相談しながら検討していきたいと思いますが、巡回バスに関しては地元である中道町の協力が必要不可欠であります。しかし、今後町村合併も控えておりますので協力先をどこに求めたらいいかなど、4館で相談して考えていきたいと思っております。

(委員)

今後予定される事業の中で、実施可能のものは県立博物館でやってもらった方がいいと思うが、そのような講座の計画はあるのか。

(事務局)

例えば、わらじづくりなどの民俗的なものは県立博物館でやっていただきたいが、本年度は広報を行っていることもあり、当館で行う予定。今後は博物館と協議する中で、考古に関することを中心にしていきたい。

(委員)

本県には世界的な縄文王国、すごい遺跡や土器があります。専門性を持った縄文文化を発信している釈迦堂、明野、南アルプス、長坂にある資料館を、こういうルートで回ってほしいというような考古博物館を核（ハブ）にした企画はどうか。

(事務局)

釈迦堂から考古博物館に来てくれるお客さんは結構います。考古～県立博物館～長坂などのルートも考えられる。企画が実行できるように検討していきたい。

(委員)

昨今の韓流ブームにより日本と韓国の交流が活発になっているように、県立博物館がオープンしたという問題はあるだろうが、23年の歴史がある考古博物館と県立博物館とは時間は

かかっても線で結び、共存共栄をはかることが必要である。

(事務局)

韓国では、こどもが博物館を見学するときには一日中自由にさせている。各自が問題意識を持って見学し、レポートを書いている。そのために、展示ケースの前に机がある。

(委員)

こどもが時間に縛られずに自由に博物館を見せて学ばせることが出来る韓国の考え方は参考になる。

(委員)

学校は5日制などで空き時間が取れないのが現状なので、モデル案などを示していただければ組み込みやすいが。

(事務局)

考古博物館だよりの60号では8コースをメニュー化させ、掲載している。また、埋蔵文化財センターでも体験学習としての出前授業をやっているので、ホームページを参考にぜひ利用していただければと思う。

(委員)

特別展を開催する度に常設展を移動させている現状は、十分な県民へのサービスとは言えないし、県立博物館と比較しても好ましい姿ではないので、特別展示室の整備は不可欠だと思う。

(委員)

常設展の機能充実は協議会からも要望したい。記録にも残しておいて、協議会から要望書を提出することも今後検討したい。